

プログラミングコンテストにおける「NICT賞」の受賞報告と「シリコンバレー起業家育成プログラム」への参加について

プログラマーズコミュニティが第29回全国高等専門学校プログラミングコンテストで「NICT賞」を受賞し、起業家甲子園全国大会の出場の報告会を行いました。

また、起業家甲子園出場予定者は米国シリコンバレーにおいてグローバルマインドを身につける機会を提供され、現地のICTベンチャーとの交流や講義を受講する「シリコンバレー起業家育成プログラム」への参加資格を得ます。

本校からは、4年電気情報工学科の朝山弘貴君が平成31年2月24日～3月2日に渡り参加しました。



前列左から

尾藤(4E)

出水(4E)

内海校長

朝山(4E)

平井(4S)

渡邊(4E)

「シリコンバレー起業家育成プログラム」に参加して！！

感想（朝山弘貴）

シリコンバレープログラムの参加の目的は、グローバルマインドを身に着ける及び自分のビジネスプランをブラッシュアップすることでした。

シリコンバレープログラムはみっちり1日の予定が組まれており、1)講義及びメンタリングがメインであり、他には、2)メンロ大学の学生との交流及び先生によるピッチ指導、さらに、現地の起業家による本場のピッチ見学、3)課題研究を行った。講義及びメンタリングは現地で活躍する日本人の方に教えて頂きました。

1)1番印象的であった講義では、世界の企業の時価総額ランキングトップ50において、1989年では30社ほど日本企業がランクインしていたのにも関わらず、現在では1社しかランクインしていないという現実を教えて頂き、現在、日本が世界の中で遅れをとっているということを学びました。そこから、シリコンバレーでは、IT企業が競い合い、どう生き残れるかという弱肉強食の世界であることを初めて実感することができました。

2)メンロ大学の学生とは自分のビジネスプランを英語で説明を行うなどをして交流を行いました。メンロ大学の先生によるピッチ指導では、自主的に英語によるビジネスプランのピッチを行い、厳しいレビューをもらうことができ、ピッチの仕方を学びました。

3)課題研究では、自分のビジネスプランと同じである、「地域創生ビジネス」をテーマにして、現地で地域創生ビジネスを行う榎本博之さんから魅力的で斬新なお話を聞くことができ、このビジネスを舞鶴市役所にもお話をさせて頂こうと考えました。

シリコンバレープログラムに参加した結果として、講義を通して、シリコンバレーエコシステムを学び、シリコンバレーでの人種の多様性、スピード、失敗容認文化というグローバルマインドを学びました。さらに、メンタリングにより、自分のビジネスプランをブラッシュアップすることができました。また、自分は数々の発表を通して、ピッチの能力が1番成長させることができたと感じます。さらに、新たなコミュニティができたことをすごく嬉しく感じます。今回、英語による会話の部分で苦労したので、英語で会話することができるように勉強すると考えます。シリコンバレープログラムで学んだことは、自分にとって非常に有益なものであり、これからの自分の人生に反映させます。シリコンバレープログラムを運営して頂いた方には非常に感謝しています。

1 日目発表



2 日目発表



3日目講義 (SVJU 発起人梶本博之氏)



4日目メンロカレッジ学生交流



5日目ピッチイベント



※ピッチとはシリコンバレー発祥の用語で、新しいアイデアをカジュアルなスタイルで投資家等に提案するものであり、従来のプレゼンテーションとは異なる手法で行います。

6 日目 NASA 訪問

